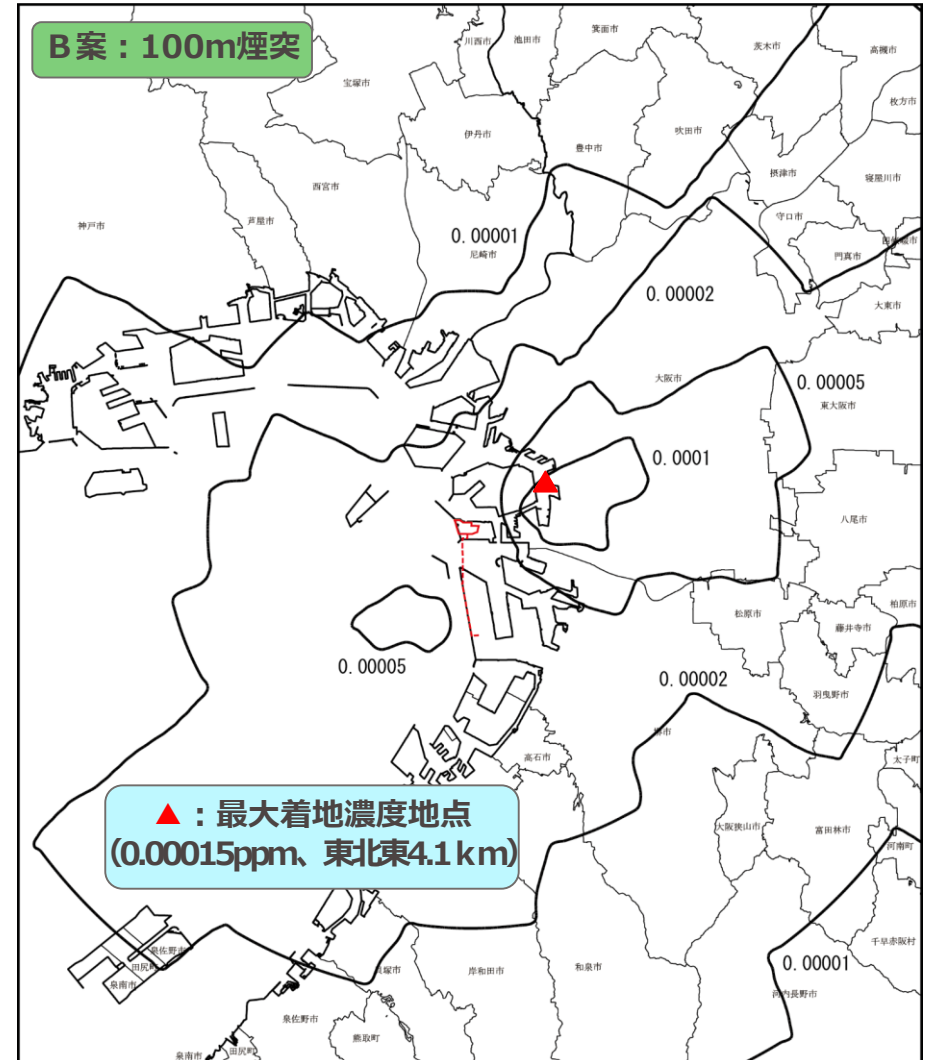


大気質の調査・予測結果

A案：80m煙突

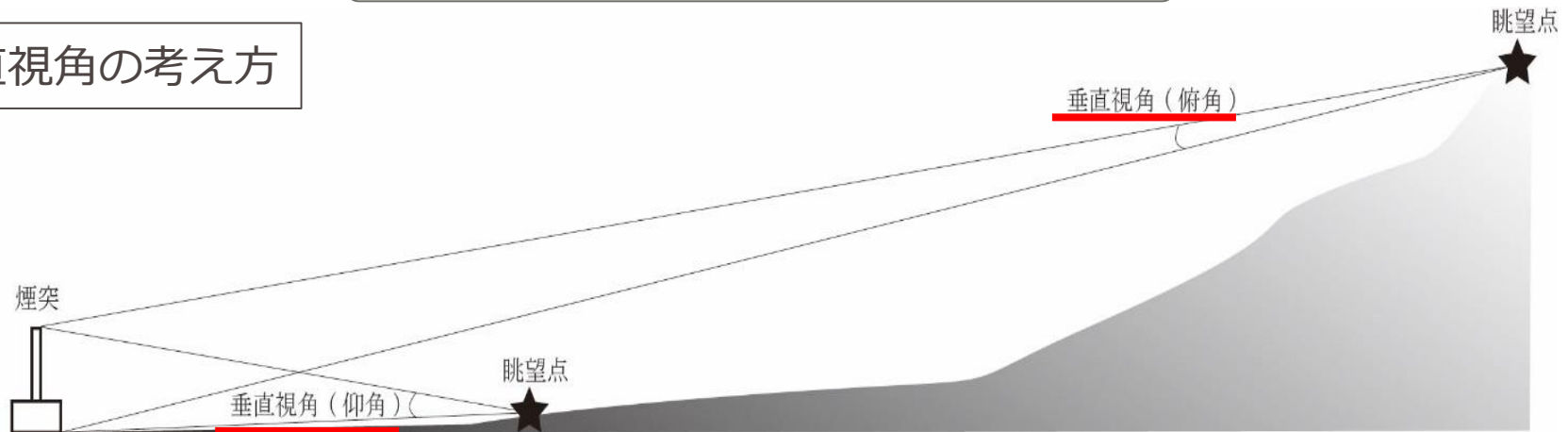


B案：100m煙突



眺望景観の評価手法

垂直視角の考え方



垂直視角と鉄塔の見え方（鉄塔高さが約70mの場合）

垂直視角	距離	鉄塔の場合の見え方
0.5°	8,000m	輪郭がやっとわかる。季節と時間（夏の午後）の条件は悪く、ガスのせいもある。
1°	4,000m	十分見えるけれど、景観的にはほとんど気にならない。ガスがかかって見えにくい。
1.5～2°	2,000m	シルエットになっている場合には良く見え、場合によっては景観的に気になり出す。シルエットにならず、さらに環境融和塗色がされている場合には、ほとんど気にならない。光線の加減によっては見えないこともある。
3°	1,300m	比較的細部まで見えるようになり、気になる。圧迫感を受けない。
5～6°	800m	やや大きく見え、景観的にも大きい影響がある（構図を乱す）。架線もよく見えるようになる。圧迫感はまだ受けない（上限か）。
10～12°	400m	眼いっぱいになり、圧迫感を受けるようになる。平坦なところでは垂直方向の景観要素としては際立った存在になり周囲の景観とは調和しえない。
20°	200m	見上げるような仰角になり、圧迫感も強くなる。

景観の調査・予測結果

	南港大橋	さきしまコスモタワー展望台
A 案： 80m煙突	 煙突の垂直視角：1.9°	 煙突の垂直視角：1.8°
B 案： 100m煙突	 煙突の垂直視角：2.4°	 煙突の垂直視角：2.3°

計画段階配慮事項の評価結果

項目	総合評価
大気質	<u>いずれの煙突高さの案も</u> 最大着地濃度（年平均値）はバックグラウンド濃度と比較して寄与率が1%以下となっており、将来予測環境濃度はいずれの案も環境基準の年平均相当値を下回っていることから、煙突高さの複数案において <u>大気質の年平均値への影響の違いはほとんどなく、いずれも重大な影響はないものと評価</u> します。
景観	眺望点及び景観資源は、直接改変されないことから、地形改変及び施設の影響による影響はないものと評価します。 <u>眺望景観への影響は、B案ではその程度がやや大きくなりますが、いずれの地点も埋立造成地における工業地帯の建物群の中において煙突が視認され、いずれの煙突高さの案も重大な影響はないものと評価</u> します。
全体	<u>大気質への影響は、煙突高さが低いA案に比べて、煙突高さが高いB案が小さくなりますがその違いは極わずかであり、眺望景観への影響は煙突高さが高いB案ではその程度がやや大きくなります。</u> 以上の予測結果を踏まえ、 <u>より眺望景観への影響が少ない、煙突高さ80mの採用が適切</u> であると考えます。

ご清聴ありがとうございました。